

## 保育科学生のクラスの雰囲気と授業評価

岩井 勇 児

### 問題と目的

私の担当した授業に対する学生の授業評価の資料を概観したところ、次のような知見が得られた(岩井 1998)。

① 授業に対する評価は、個別の項目に対して行っているというよりも、授業全体に対する好意度あるいは満足度を表しており、教師の個々の行動を判断して評定したというよりも、授業担当の教師が好きか嫌いかという、教師への情緒的な反応ということができる。

② 授業への興味関心の低い者は、授業について低い評価をし、関心の高い者は、授業に対しても高く評価する傾向があった。したがって、授業評価は、教師側の問題というよりも学生側の授業への態度を反映していると考えられる。

一方、教員養成大学、あるいは幼児教育科等で多くの授業を担当してきた経験によると、授業がやりやすかったクラスと授業がやりにくいクラスがあった。しかも、それは最初の時間に講義室に入室した瞬間に感じるようなものであった。最初にやりにくいクラスと感じると、その印象が、私の教授行動にも影響するせいか、最後までしっくりしないことがあった。やりにくいクラスという場合、同僚からの情報も併せてみると、どの先生にも感じの悪いやりにくいクラスがあるし、私との相性が悪くて、私にはやりにくいクラスだが他の先生にはそれほどでもないクラスがあるようである。

1998年度後期、本学の教育心理学授業のクラス編成は、ABクラスとCDクラス(以下AB、CDと表記する)の2クラスであり、火曜日の1限がAB、2限がCDであった。そして、ABがやりにくいクラス、CDがやりやすいクラスであった。ABとCDのクラスの雰囲気の違いは、私との相性だけではなく、多くの先生たちの感想でもあった。

そこで、昨年度とほぼ同様な授業評価の資料を得て、ABとCDのクラスの雰囲気が、私の授業に対する評価に、どのように影響しているかを検討する事とした。すなわち、授業評価が、授業する側の問題というよりも、受講者側の態度の反映である、という従来の知見が当てはまるならば、ABクラスの授業評価よりもCDクラスの授業評価のほうが、相対的に評価が高くなるはずである。

### 方 法

#### (1) 授業の方針と授業の状況

1998年度は、できるだけ日常行動を取り上げて、短大生向きに作成したテキスト『子どもと喜び悲しむ心理学』を使用した。かなり図表や写真をたくさん入れ、小見出しも沢山つけて読みやすくした。私一人で作成したものである。

受講態度に対しては、従来通り厳しくしつけた。まず、前の座席を空けないように、一番前の列から座らせた。注意をくり返してもテキスト忘れたり、私語をくり返すなど、注意の効果がないときは退場を命じたり、遅刻が目には余るときは、出席とは認めないなどして、とにかく授業中は静粛を保った。80人前後のクラスを90分間静粛に保つためには、かなりエネルギーを消耗した。

#### (2) 調査票

調査票は昨年度とほぼ同じである。評価項目は、25項目である。それぞれについて、「わたしは」(自己評定とする)と「クラスの多くの人たちは」(他者評定とする)の2通りの5段階評定を求めた。自由記述として、無記名の場合には「受講者としての反省」「授業の感想・要望」、記名の場合には「本学で学んだことについて感想」を書く欄をもうけた。また、フェイスシート項目として、入試、志望動機、適性などについて項目を用意した。(末尾に無記名の調査票を添付した。)

(3) 授業評価の実施

前回の調査において、記名と無記名を比較し、結果に大差がない結論を得た。今回は、記名と無記名の比較は、直接の目的ではないが、資料として得ておきたいので、前回同様の授業評価を実施した。

後期の授業が終了する一週間前に、無記名の調査を実施した。教示・回収は私が行った。授業の最終回に記名の調査を行った。再度調査をすることについては「質問紙調査法の研究のために、無記名と記名の比較検討をしたい」と簡単に説明した。教示・回収は無記名の場合とほぼ同じにした。

無記名と記名で受講者は同じだが、欠席者が違うため、回答数は異なり表1の通りである。

表1 回答数

	AB	CD
受講生数	79	77
無記名回答数	61	77
記名回答数	73	61

結 果

(1) 入試・就職・満足度・期末試験成績など

フェイスシート項目として質問した、入試の種類、志望順位、志望理由、就職状況、本学で学んだことに対する満足度、などについて、ABとCDの回答を比較したのが表2である。

これを見ると、CDのほうが、推薦入試の割合が低く、幼稚園・保育園の先生志望が高い、などの傾向も見られるが、もっとも大きな違いは、満足度である。CDは94%が満足であるのに対して、ABの満足は75%である。

これらの資料から大まかに言えば、本学の学生の多くは本学に適應している。しかし、本学に適應しにくい学生の割合は、CDよりもABのほうが多い、といえるだろう。

なお、本調査とは別個の資料であるが、参考のために、期末試験成績を表2の末尾に示した。これを見ると、ABよりもCDのほうが得点が高い。ただし、日頃の状態を見て、試験問題は、ABのほうがCDよりも易しく作問してある。したがって、同一問題ならば、もっと得点は開いたと予想できる。

表2 入試・就職・満足度など

項 目	選 択 肢	AB N=61		CD N=77	
		f	%	f	%
入 試	一般	23	37.7	34	44.2
	推薦	38	62.3	42	54.5
	社会人			1	1.3
志 望	第1志望	48	78.7	58	75.3
	第2志望	11	18.0	16	20.8
	第3志望以下	2	3.3	3	3.9
志望理由	幼稚園・保育所の先生	54	88.5	74	96.1
	どちらでも	6	9.8	2	2.6
	一般企業	1	1.6	1	1.3
就 職・ 進 路	公立決定	4	6.6	7	9.1
	私立決定	42	68.9	51	66.2
	企業決定	4	6.6	4	5.2
	進学決定	2	3.3	4	5.2
	その他決まっている	5	8.2	1	1.3
	幼稚園保育園就職希望	1	1.6	6	7.8
	企業就職希望	3	4.9	3	3.9
その他			1	1.3	
満 足 度	かなり不満足			2	3.3
	なんとなく不満足	2	3.3	1	1.3
	どちらでも	11	18.0	3	3.9
	まあまあ満足	33	54.1	46	59.7
	かなり満足	13	21.3	26	33.8
	NR			1	1.3
試験成績	$\bar{X}$ (SD)	62.7 (15.4)		66.8 (15.6)	

(2) 項目の分類

評定に使用した25項目を分類するために、因子分析を試みた。回答の種類として、自己評定と他者評定、記名と無記名、全体とクラス別などがあり、いろいろな組み合わせで因子分析を試みたが、もともと評定値が偏って相関が低い項目があるためか、すっきりした因子構造にはならなかった。全体のデータで、自己評定の無記名と記名を比較してみると、昨年度の報告と同じように、無記名よりも記名のデータのほうが、解釈のしやすい因子構造となった。このことは、無記名よりも記名のほうが、個別の項目の意味を多少とも考えて回答している、ことなのかもしれない。そこで、今回も記名かつ自己評定の全体のデータによる因子分析の結果によって、項目の分類を試みた。

因子Iは、「説明はわかりやすい」「話し言葉は聞き易い」「理解しやすい」などの項目から「授業の分かりやすさ」因子とした。因子IIは、「違った

表3 項目の分類：因子分析の結果

因子	I	II	III	IV	V	VI	VII	$h^2$
4. 説明はわかりやすい。	0.83	0.26	0.02	-0.05	-0.09	0.06	0.01	0.78
2. 話し言葉は聞き易い。	0.75	0.07	0.16	-0.09	0.04	-0.22	0.18	0.68
24. 全体として、理解しやすい授業だった	0.67	0.52	0.15	0.10	-0.02	0.18	-0.03	0.78
10. 授業の進み方は適切である。	0.59	0.01	0.01	0.22	0.03	0.07	-0.03	0.40
6. 板書はわかりやすい。	0.48	0.15	0.20	0.30	0.25	-0.17	-0.01	0.48
12. 今までと違った考え方に気づいた。	0.07	0.83	0.11	0.07	0.11	-0.19	0.04	0.76
13. 自分を見直す機会となった。	0.11	0.80	0.19	0.16	0.10	-0.13	-0.14	0.77
14. 全体として満足である。	0.39	0.59	0.44	0.07	-0.13	0.15	0.05	0.74
7. テキストはわかりやすい。	0.52	0.58	0.10	0.02	-0.07	0.15	0.06	0.65
11. 実践的で役立つ内容である。	0.45	0.56	0.20	0.23	0.04	0.15	0.05	0.64
1. 授業内容には興味がある。	0.49	0.50	0.34	0.12	-0.13	0.16	-0.07	0.67
20. 板書はノートに写した。	0.09	0.01	0.76	0.30	0.16	-0.06	-0.06	0.70
21. 先生が話すこともノートにとった。	-0.04	0.18	0.72	0.20	-0.04	0.07	-0.04	0.60
16. 説明はよく聞いていた。	0.42	0.28	0.70	0.01	-0.01	0.12	0.12	0.76
18. 居眠りしないようにした。	0.05	0.18	0.60	-0.18	-0.11	0.09	0.51	0.70
3. 授業は意欲的である。	0.45	0.32	0.57	0.04	0.08	0.12	0.14	0.67
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	-0.04	0.07	0.09	0.79	-0.20	-0.05	0.13	0.69
25. 予習・復習するように努力した。	0.13	0.11	0.14	0.76	-0.01	-0.06	0.12	0.64
15. 教育心理学に関心があった。	0.18	0.22	0.22	0.52	-0.22	0.16	-0.30	0.56
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	0.17	0.32	0.04	0.40	-0.08	0.24	0.29	0.44
5. 私語に厳しい。	0.03	0.10	0.05	-0.17	0.87	-0.08	0.13	0.82
9. 欠席・遅刻に厳しい。	-0.02	-0.01	-0.01	-0.10	0.86	0.16	-0.06	0.77
22. 遅刻しなかった。	-0.11	0.03	0.05	0.00	-0.07	0.80	0.16	0.68
8. 授業の開始時間は守る。	0.24	-0.13	0.16	-0.03	0.26	0.65	-0.14	0.62
17. 私語をしなかった。	0.09	-0.10	0.04	0.26	0.09	0.04	0.78	0.70
固有値	7.47	2.22	1.81	1.53	1.38	1.23	1.03	16.68
寄与率 (%)	29.90	8.90	7.30	6.10	5.50	4.90	4.10	66.70

考え方に気づいた」「自分を見直す機会」「実践的で役立つ内容」などから「授業内容の満足度」因子とした。因子Ⅲは、「ノートに写した」「説明はよく聞いた」などから「受講態度」因子とした。因子Ⅳは、「テキストの授業範囲外も読んだ」「予習・復習」「黙読のときまじめに読んだ」などから「学習意欲」因子とした。因子Ⅴ、Ⅵ、Ⅶは、項目数も少ないが、遅刻、私語などしつけ関連の因子である。

因子Ⅰ、Ⅱは、教師の授業に関する評価であり、因子Ⅲ、Ⅳは、学生の反省に関するものである。

### (3) 選択率及び平均値による AB と CD の比較

AB と CD の比較は、自己評定・無記名の回答によるデータに基づいて行った。ただし、項目の分類と配列は、表 3 の因子分析の結果の順とし、因

子ごとに横線で区分した。まず、5 段階評定を 3 段階に纏めて、選択率を示したのが、表 4 の左側である。同じデータを平均と標準偏差で示したのが、表 4 の右側である。平均に関しては、平均値の差の検定結果も示した。

AB と CD 共通して「いいえ」の選択率が高く、平均値が低い項目は、「予習・復習する」「板書はわかりやすい」である。要するに、授業以外には勉強しない者が多数である。また、テキストをかなりていねいに作り、授業で与える情報はすべてテキストに載せたので、板書は情報を与えるためではなく、テキストの情報を説明するためなのだが、板書するとこちらの説明を聞かないで写そうとするらしい。私の板書は、写しにくいことは確かである。

AB と CD 共通して「はい」の選択率が高く、平

均値が高い項目は、私語、遅刻に関する項目、黙読に関する項目である。私語、遅刻に対しては、かなり厳しいし、学生もそれなりに気をつけたようだ。「黙読」というのは、出席をとる前に、テキストを各自読ませるのである。はじめの数回の授業では、授業のはじめに次のようなことを繰り返す。黙読を指示しても知らん顔で私語している状態だから、机間巡視すると、将棋倒しの逆のように私の進行に沿ってテキストを出して読み始める。そこで、テキストを忘れた者には取りに行かせる。黙読中は、私語を禁止し、そのあいだに出席をとる。

これ以外の項目は、おおむね AB よりも CD のほうが「はい」が多く、平均値が高い。特に因子Ⅱの「授業内容への満足度」に含まれる項目では、その差が顕著である。すなわち、AB よりも CD のほうが、授業が分かりやすく、授業に満足し、受講態度もよく、学習意欲も高いのである。

これをもう少しはっきり示すために、それぞれの因子の因子合成点を求めて、AB と CD を比較してみた。それが表 5 である。私語、遅刻に関する因子以外は、すべて AB よりも CD のほうが評定値が高いことが分かる。

表 4 選択率及び平均 AB と CD の比較

項 目	選択率 (%)						平 均				
	AB			CD			AB		CD		検定
	いいえ	?	はい	いいえ	?	はい	$\bar{X}$	SD	$\bar{X}$	SD	
4. 説明はわかりやすい。	14.8	41.0	44.3	9.1	23.4	67.5	3.3	0.8	3.8	0.9	<<
2. 話し言葉は聞き易い。	14.8	36.1	49.2	5.2	33.8	61.0	3.4	1.0	3.7	0.8	
24. 全体として、理解しやすい授業だった。	14.8	44.3	41.0	5.2	24.7	70.1	3.3	0.9	3.9	0.9	<<
10. 授業の進み方は適切である。	4.9	44.3	50.8	3.9	19.5	76.6	3.6	0.8	4.0	0.9	<<
6. 板書はわかりやすい。	73.8	24.6	1.6	67.5	27.3	5.2	2.1	0.8	2.2	0.9	
12. 今までと違った考え方に気づいた。	29.5	27.9	42.6	16.9	15.6	67.5	3.2	1.1	3.7	1.1	<<
13. 自分を見直す機会となった。	37.7	34.4	27.9	22.1	22.1	55.8	2.9	1.1	3.5	1.1	<<
14. 全体として満足である。	23.0	50.8	26.2	13.0	23.4	63.6	2.9	1.0	3.7	1.1	<<
7. テキストはわかりやすい。	6.6	31.1	62.3	3.9	13.0	83.1	3.7	0.9	4.2	0.8	<<
11. 実践的で役立つ内容である。	13.1	52.5	34.4	5.2	23.4	71.4	3.3	0.9	4.0	1.0	<<
1. 授業内容には興味がある。	16.4	29.5	54.1	6.5	11.7	81.8	3.5	0.9	4.1	0.9	<<
20. 板書はノートに写した。	27.9	19.7	52.5	23.4	18.2	58.4	3.4	1.4	3.7	1.5	
21. 先生が話すこともノートにとった。	31.1	34.4	34.4	26.0	18.2	55.8	3.0	1.3	3.4	1.3	
16. 説明はよく聞いていた。	8.2	47.5	44.3	9.1	24.7	66.2	3.4	0.8	3.7	0.9	<
18. 居眠りしないようにした。	29.5	27.9	42.6	22.1	18.2	59.7	3.3	1.3	3.7	1.3	
3. 授業は意欲的に聴いた。	18.0	41.0	41.0	7.8	29.9	62.3	3.3	0.9	3.7	0.9	<<
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	70.5	16.4	13.1	51.9	19.5	28.6	2.0	1.1	2.6	1.4	<<
25. 予習・復習するように努力した。	88.5	8.2	3.3	87.0	7.8	5.2	1.5	0.9	1.6	0.9	
15. 教育心理学に関心があった。	34.4	41.0	24.6	32.5	36.4	31.2	2.8	1.1	3.1	1.1	
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	8.2	18.0	73.8	1.3	7.8	90.9	3.9	1.0	4.6	0.8	<<
5. 私語に厳しい。	3.3	1.6	95.1	9.1	2.6	88.3	4.8	0.7	4.4	1.0	>>
9. 欠席・遅刻に厳しい。	8.2	4.9	86.9	9.1	6.5	84.4	4.5	1.0	4.4	1.0	
22. 遅刻しなかった。	13.1	3.3	83.6	1.3	1.3	97.4	4.3	1.2	4.9	0.5	<<
8. 授業の開始時間は守る。	0.0	9.8	90.2	9.1	7.8	83.1	4.6	0.7	4.3	1.1	
17. 私語をしなかった。	14.8	11.5	73.8	1.3	13.0	85.7	4.1	1.2	4.3	0.7	

注：<<、>>は1%水準、<、>は5%水準で有意差。以下同じ。

表5 因子合成点によるABとCDの比較

因子	AB		CD		検定
	$\bar{X}$	SD	$\bar{X}$	SD	
I 授業の分かりやすさ	3.1	0.6	3.5	0.6	<<
II 授業内容の満足度	3.2	0.7	3.9	0.8	<<
III 受講態度	3.3	0.8	3.6	0.9	<<
IV 学習意欲	2.6	0.7	3.0	0.7	<<
V 私語・遅刻の厳しさ	4.6	0.7	4.4	0.8	NS
VI 遅刻しない	4.4	0.8	4.6	0.6	NS
VII 私語しない	4.1	1.2	4.2	0.7	NS

注) 因子合成点は各因子に含まれる項目の評定値を平均して求めた。

#### (4) 自由記述による比較

自由記述に関しては、学生の記述で複数の意味が含まれているものは、単純な文に区切り、その単文を分類した。

##### ①学生の反省

「受講者としての反省があれば、自由に書いてください。」に対する学生の反省に関して分類したのが、表6である。授業中居眠りをした、遅刻欠席をした、などはABのほうがCDよりもやや多い。私語をしていた、まじめに聞いていなかったなど、受講態度に関しては、ABよりもCDのほうがやや多い。また、授業をまじめに聞いていたなど、受講態度良い、としたのはCDのほうがやや多い。しかし、こうした度数に統計的有意差はなく、学生の反省には、ABとCDの間でそれほど大きな違いはないだろう。

##### ②授業に対する感想・要望

「授業の感想・要望があれば、自由に書いてください。」に対する自由記述を分類したのが、表7である。

表6 学生の反省 (度数)

クラス	AB	CD
居眠り	23	16
遅刻・欠席	6	2
受講態度が悪い	16	23
予習復習しない	7	8
受講態度は良い	5	12
授業内容	4	4
特になし	5	5
記述数	66	70

まず、大きくマイナスの評価とプラスの評価の二つに分けた。すなわち、授業に対する要望や不満などと授業に満足であったなどの評価である。

これをみると、ABでは、要望・不満が70.5%であり、満足が29.5%であった。これに対して、CDでは要望・不満が43.9%であり、満足が58.1%であった。しかも、要望・不満の内容をみると、ABでは要望よりも不満のほうが多い。したがって、大まかに言えば、私の授業に対して、ABでは不満でありマイナスの評価が強く、CDではある程度満足してプラスの評価をしているのである。

表7の各分類項目の度数の違いなども、ABとCDの授業に対する評価の違いを現している。以下、各項目に分類された記述内容の例を挙げておこう。

表7 授業に対する感想・要望

		AB		CD	
		度数	%	度数	%
要望 不満	遅刻・欠席に関する不満	24		7	
	私語・叱り方が厳しすぎる	31		24	
	授業のやり方への要望	15		22	
	授業内容への不満	4		1	
	小計	74	70.5	54	43.9
満足	私語なく聞き易かった	4		13	
	授業内容がよかった	16		34	
	授業分かりやすく楽しかった	9		20	
	今のままでよい	2		2	
	小計	31	29.5	69	56.1
全記述数		105	100.0	123	100.0

##### 遅刻・欠席に関する不満

- ・遅刻は授業開始から30分と決まっているので、この授業もそうしてほしい。(注：本学にはこのようなルールはない。学生の思いこみらしい。)
- ・家が遠いので、電車が少しでも遅れると時間が合わないで、15分程度の遅刻は見逃してほしい。
- ・朝、調子が悪かったなどの理由で遅刻したばあいでも、欠席扱いは厳しい感じました。
- ・やる気がなければ、遅刻だと思ったらこない。遅刻してでもくるという気持ちを認めてほしいです。

##### 私語・叱り方が厳しすぎる

- ・あまり気にならない私語に対して、大声でどなるのは心臓に悪いのでやめてほしい。
- ・あまりに教室の中が静かすぎて、1つ1つの音がとても気になり、自分が動く時なども、気をつけなければいけなくて、ずっと気がはる授業でした。

- ・授業内容に関しての私語はかまわないと思う。
- ・「ペンを貸して」と友達に言うだけでも怒るのは間違ってる。

#### 授業のやり方への要望

- ・先生が一方的に話をするばかりで私語にもとても厳しいので、できれば、途中で3分でも5分でもいいから、休けい時間がほしかった。
- ・講義内容が、テキストそのままを話しているだけなので、とても眠たくなる。授業形態を少しかえてほしい。
- ・生徒にも話しを聞きながら、いっしょに進めていく講義をしてほしい。
- ・どこがポイントか、はっきりとわかるようにしてほしいと思います。

#### 授業内容への不満

- ・少し、自分の考えをおしつけているところがあったと思う。
- ・自分の人生論にすぎず保育に関係のない内容が多い。

#### 私語なく聞き易かった

- ・この授業はとても静かだったので授業に集中できてよかったと思う。
- ・先生は厳しい人だとおっしゃいますが、私は別に先生はあたりまえのことしか言っていないのでそう思いませんでした。

#### 授業内容よかった

- ・授業の内容としては、けっこう興味がわき、よかったです。
- ・子どものことを考えながら話していることが、伝わってきて、理解しやすかった。
- ・就職してからや、母親になったときに役立つ講義内容だったので、興味を持って講義に参加できたので良かったです。
- ・色々な先生の保育観をきいてきましたが、岩井先生の考えが一番自然で、素直に納得できました。
- ・自分が子どもの時に親にされていたことが少しあって、それが良い面であったり、悪い面であったりして、気付くことができよかったです。

#### 授業分かりやすく楽しかった

- ・テキストも読みやすく、「なるほど!」と思うところがたくさんでした。だから最初の本読みだけはまじめでした。
- ・もう少し難しい内容かと思っていただけ、経験談などが多かったから大変おもしろかったです。
- ・テキストに先生や先生のお子様の話が入っていて、その話の時は聞くのが楽しかった。
- ・とても楽しい授業だった。来年もがんばりたい。

#### 今のままでよい

- ・べつに、今のままでいいです。
- ・嫌な所はあまりない。

## 考 察

授業評価項目の評定について、選択率と平均値によって、ABとCDを比較した。また、自由記述を分類して、ABとCDとを比較した。これらの結果を見ると、予想通り、やりにくいクラスABよりもやりやすかったクラスCDのほうが、私の授業に対して高い評価をしていた。このことについて、いくつかの視点から、私の見解を纏めておこう。

### (1) 構造的不満の反映

長く教員養成大学に勤めていた経験からいうと、学生時代に不満の多い学生は、その後就職しても、転勤しても、常に新しい不満を探してきて、ぶつぶつ言う傾向がある。こうした人は、恐らく自己受容が不十分でかつ自分を受容してくれる人に恵まれていないようである。そのために、どういう状況におかれても満足できず、その不満の理由を周囲のせいにする、という人格構造をもっている。そこで、こうした本人の人格から発生する不満を「構造的不満」と名付けることにした。

構造的不満という視点から、学生だけでなく、いろいろな人の不満を観察していると、構造的不満のある人は、不満をいうことで悪人を作り出し、自分の弱点を正当化し、自分の身を正義の側におこうとしているように見える。したがって、こうした人にとって不満は必要なものであり、解消したら困るものである。

ABとCDでは、表2の本学で学んだことの満足度が異なる。この満足度のなかには、こうした構造的不満が含まれている。クラスの雰囲気の根底に、構造的不満のあり方の違いがあるような気がする。したがって、遅刻や私語に厳しすぎる、と不満を述べる学生に、遅刻や私語はしたい放題、としたら満足するか、というとおそらく否であろう。また新たな不満の種を探すだけのことである。

授業評価のなかには、その授業の担当者に対する反応だけでなく、学生側にある構造的不満も反映されている、と思う。

### (2) 学習意欲と評価

昨年度の資料では、授業への関心度の高低と授

業評価に関連があった。授業への関心の低いものは、授業の評価が低く、関心の高いものは評価が高かった。

表5の因子Ⅳ「学習意欲」の因子合成点をみると、ABよりもCDのほうが評定値が高い。また、表3の「学習意欲」に含まれる項目を見ると、「テキストの授業範囲外も読んでみた」「黙読のときテキストをまじめに読んだ」では、ABよりもCDのほうが評定値が高い。これらのことから、ABよりもCDのほうが、学習意欲が高いから、全体にCDのほうが授業評価が高くなっていると考えられる。

表8は、因子Ⅳ「学習意欲」の因子合成点の低いほう、高いほう、それぞれ約30%取り出して、全体の評定値を比較してみたものである。

これを見ると、「授業の分かりやすさ」「授業内

容の満足度」「受講態度」いずれに属する項目も有意差があり、学習意欲の高い者は、他の項目にも高い評定をしている。

このことは、これまでも指摘したように、授業への興味関心もなく、学習意欲のない学生は、授業に対して低い評価しかしない、ということを実現している。

### (3) インフォーマルなリーダーの影響力

ABとCDのクラスの雰囲気の違いは、どうしてできたのだろうか。この学年に関しては、1年のときは赴任していなかったし、2年の後期に教育心理学の授業を担当しただけなので、私にはよくわからないが、おそらく、入学時のABとCDの学生の資質に、それほど大きな差はなかったと思われる。それが、何かのはずみで、ボタンの掛け

表8 学習意欲の高低と授業の評定値

関心度 項目	低い N=40		高い N=44		検定
	$\bar{X}$	SD	$\bar{X}$	SD	
4. 説明はわかりやすい。	3.0	0.9	3.9	0.9	<<
2. 話し言葉は聞き易い。	3.3	0.9	3.7	0.7	<
24. 全体として、理解しやすい授業だった	3.1	0.9	4.0	0.8	<<
10. 授業の進み方は適切である。	3.4	0.8	4.1	0.9	<<
6. 板書はわかりやすい。	1.7	0.7	2.5	0.8	<<
12. 今までと違った考え方に気づいた。	2.9	1.2	3.9	0.8	<<
13. 自分を見直す機会となった。	2.6	1.0	3.8	0.9	<<
14. 全体として満足である。	2.6	1.0	3.9	1.0	<<
7. テキストはわかりやすい。	3.5	0.8	4.4	0.7	<<
11. 実践的で役立つ内容である。	3.2	0.9	4.0	1.0	<<
1. 授業内容には興味がある。	3.2	1.0	4.2	0.9	<<
20. 板書はノートに写した。	3.0	1.6	4.1	1.1	<<
21. 先生が話すこともノートにとった。	2.4	1.1	3.7	1.1	<<
16. 説明はよく聞いていた。	3.0	0.9	4.0	0.8	<<
18. 居眠りしないようにした。	2.9	1.4	3.8	1.2	<<
3. 授業は意欲的に聴いた。	2.9	0.9	4.0	0.6	<<
19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	1.2	0.4	3.8	1.0	<<
25. 予習・復習するように努力した。	1.1	0.2	2.3	1.1	<<
15. 教育心理学に関心があった。	2.0	0.9	3.7	0.9	<<
23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ。	3.6	1.1	4.6	0.6	<<
5. 私語に厳しい。	4.7	0.8	4.4	1.0	NS
9. 欠席・遅刻に厳しい。	4.7	0.6	4.3	1.2	NS
22. 遅刻しなかった。	4.6	1.0	4.6	1.0	NS
8. 授業の開始時間は守る。	4.2	1.0	4.3	1.1	NS
17. 私語をしなかった。	3.8	1.3	4.3	0.8	NS

違いのような悪循環が、教師と学生の間で生じたのではなからうか。

専攻科保育専攻の授業「教育統計法研究」のレポートの課題として、表2と表3（ただし、項目の配列は、調査票順で、因子別ではない）及びABとCDごとの授業に対する感想・要望の自由記述全文を学生に与えて、ABとCDの資料の差について読みとる課題を出した。そのレポートのなかで、当事者であったある学生は、次のような観察を書いている。

先生たちから、ABクラスはどの授業でも（うるさい、落ち着きがない）という評価を受けていたのに対し、CDクラスは（真面目に授業を受けていた）という評価でした。

ABクラスの特徴としては、遅刻をする人、宿題をやってこない人、騒ぐ人というように、あまり良い状態ではない人に影響され、足を引っ張られていたような気がします。逆にCDクラスは、ちゃんと宿題をこなし、授業中は静かにする、遅刻をあまりしないというような良い影響を与える人たちに引っ張られていたような気がします。

就職に関しても、公立に合格した人はCDクラスに多く、私立への就職率もCDクラスの方が早く決まってきました。クラスのまとまりも、学園祭などの出し物などを見ても、圧倒的にCDクラスの方が良く、Aクラスもわりと良い状態でした。しかし、わたしがいたBクラスは、まとまりも悪い、仲も悪い、授業態度も悪いというような状態でした。学園祭もかなりひどいものでした。

ここでまとめて書いたことは、わたしが二年間生活してきた中で見てきたことです。データから見たものではありません。でも、このわたしが見てきたことと、データの結果が少しは関連があるのではないかと思います。

全体を通しては、やはりCDクラスの方がきちんと授業を受け、授業内容に関心を持ち、その上で先生に対しての不満を書いているような気がしました。ABクラスは、自分たちにとって不都合なことを先生のせいにして文句をいっているだけに過ぎないような気がしました。そういうことから考えてみると、ABクラスよりCDクラスの方が少し大人だったような気がします。

これは、1つの視点だが、これらから想像すると、ABには、もともと構造的不満を持つ学生がいて、それがインフォーマルにリーダーシップを発揮し、それに追従する学生たちを巻き込み、一般の学生がそれに引きずられてしまった、と考えられる。

#### （4）教授行動の影響

私は、ABとCDの両クラスに対して、ほぼ同じ授業をしたつもりである。リピートの授業の場合、どちらかといえば、最初のクラスのほうが丁寧な授業をして、繰り返すほうは、端折ってしまうことが多いから、授業の内容としては、ABのほうがむしろきちんとしていたかもしれない。

前項の学生の報告にもあるように、そもそも、ABは多くの先生から低い評価を受けていて、そのことが学生の受講態度をさらに悪くしていたかもしれない。それに加えて、1限の授業だったので最初は遅刻する者が多かった。その遅刻に対する私の厳しい措置に対しては、学生もそれなりに努力したと思う。しかし、電車の都合で15分ぐらいの遅刻は認めよ、といった身勝手な学生にとって、1限に遅刻しないことはかなり厳しいことだから、心情的にはそれなりに不満を抱いたと思う。

私は、学生のしつけも授業の一環と考えるし、しつけは行動として実行させるまで徹底させる方針である。だから、学生に反発されようと嫌われようと、徹底してルールを守らせた。したがって、私の教授行動のなかで、遅刻や私語に対する叱責、注意等の行動の比率は、恐らくCDよりもABのほうが高くなっていたと思う。

授業評価には、こうした私の授業行動に対する情緒的反応が、全体として反映されているようである。

授業評価におけるABとCDの違いについて、構造的不満の反映、学習意欲、インフォーマルなリーダーの影響力、教授行動の影響などから考察してきたが、これらを通して、従来と同じ傾向が見られたのである。

すなわち、私の授業に対する学生の評価は、遅刻、私語、板書などの項目を除けば、個別の項目に対して行っているというよりも、授業全体に対する好意度あるいは満足度を表しており、教師の個々の行動を判断して評定したというよりも、授業担当の教師が好きか嫌いかという、教師への情緒的な反応ということができるのである。

なお、ABとCDの比較には直接関係がないし、短大授業論として改めて論じたい問題であるが、



学生の自由記述で述べられていることについて、若干触れておきたい。

その一つは、理由がある遅刻、理由がある私語、などは認めるべきだ、という意見である。「病気で遅れた」「他の先生との用事で遅れた」のは、かまわない。「授業内容で話し合った」「消しゴム貸してといった」「(自分が) 気にならない」おしゃべりはしてもよい、というように、なまけて遅刻したわけでない、授業と関係あるおしゃべり、など動機が正当なら遅刻や私語はかまわない、という風潮である。これは、自分が正当と思えば、教授者や他の受講者への影響など、眼中にない発想である。

今、教育界あるいは教育行政において、教育における個性尊重、臨床心理学的配慮など、個人への配慮と、学校という組織による教育の問題とを区別しないで、学生のこうした身勝手な風潮を容認したり、助長したりする傾向がみられる。しかし、これを認めては学校教育という組織の教育は崩壊する。したがって、多人数を対象にする講義は、個人的理由の動機論より、受講態度の結果論で個人を切らないと、成り立たなくなると思う。

もう一つは、教師が一方的に講義するだけだから、つまらなくて眠くなる、もっと生徒も参加し発言させる授業にして欲しい、という意見である。従来の講義型の授業は古くて対話型、討論型、参加型の授業こそ、考える力を育てる魅力ある授業方法である、といった建前論が小学校から大学までまかり通っている風潮がある(田中幸代, 1998)。

しかし、こうした授業形態が効果があるのは、力量のある教師と能力や意欲のある生徒の恵まれた組み合わせの時だけである。小中学校の多くの授業を見てきたが、子どもに発言させてそれを深める授業ができる有能な教員は、1つの学校に一人かふたりぐらいしかいない。多くの教師の子どもも参加型の授業は、子どもに発言させているだけで、基礎的知識を分かりやすくきちんと教えていないような気がする。だから、できる子にとっては退屈なやらせでしかないし、できない子にとっては何も分からない無駄な時間を過ごすだけにすぎない。

考える力を育てる学校教育で育ったはずの学生

たちをみていると、考える力どころか基礎的知識すら貧弱な感じである。

私自身も、かつて教員養成大学の教職科目の講義で、学生対話型参加型の授業をあれこれ試みたことがある。しかし、学習意欲がなく基礎知識もない学生に、復習の質問をしても「分かりません」「知りません」が多いし、発表させてもテキストのいい加減な抜き書きしか発表しない、考えさせようとしても貧困な思いつきしか発言しないことが多かった。結局、無駄な時間が多く、講義の主目的である心理学の基礎知識の伝達が不可能になってしまった。

私は、大学紛争の後ぐらいから、私の力量では、もともと講義を聴く姿勢のない学生に、授業方法を対話型、参加型に工夫しても、満足させることはできない、それどころか、基礎知識の伝達という点で、ますます効率が悪くなるだけである、という信念のもとに講義をしてきた。そして、講義を聴こうとする学生に、分かりやすく知識を伝える努力をしてきた。私の講義が一方的だから眠くなるという学生は、もともと講義を聴く気がないのだ。だから、今でも、この方針は変えるつもりはない。

## まとめ

1998年度、私の担当した教育心理学の2クラスは、対照的な雰囲気であった。ABはやりにくいクラスであり、CDはやりやすいクラスであった。そこで、このクラスの雰囲気が授業評価に反映されているかどうかを検討した。その結果、次のようなことが得られた。

- ① 授業評価の評定項目を因子分析したところ、授業の分かりやすさ、授業内容の満足度、受講態度、学習意欲、私語・遅刻の厳しさ、遅刻しない、私語しない、の7因子が得られた。
- ② 評定の選択率、平均値を比較したところ、授業の分かりやすさ、授業内容の満足度、受講態度、学習意欲、などの因子合成点あるいは、これらに属する項目においては、ABよりもCDのほうが評定値が高かった。
- ③ 学生の反省に関する自由記述を分類したところ、居眠り、遅刻・欠席、受講態度悪い、予習復習しない、受講態度よい、などの項目に分かれた。

各項目の度数に関して、ABとCDの間に大きな差はなかった。

④ 授業の感想・要望に関する自由記述を要望・不満足と満足の2つに分類した。要望・不満に関しては、遅刻・欠席に関する不満。私語・叱り方が厳しすぎる、授業のやり方への不満、授業内容への不満などの項目に分かれた。満足に関しては、私語なく聞き易かった、授業内容よかった、授業分かりやすく楽しかった、今のままでよいなどの項目に分かれた。ABとCDを比較してみると、ABは要望・不満が満足よりもかなり多く、CDは要望・不満よりも満足のほうが多かった。

⑤ ABとCDのこうした違いについて、構造的不満の反映、学習意欲、インフォーマルなリーダーの影響、教授行動の影響などから考察した結果、従来と同じ知見が得られた。すなわち、授業評価は、授業における個別の教授行動に反応して

いると言うよりも、教師に対する全体的、情緒的な好意度、満足度を表している、ということが出来る。

付記：データの入力には、専攻科保育専攻の学生諸君および専攻科卒業生石野珠子氏の労を煩わした。記して感謝したい。

## 文 献

岩井勇児 1983, 教師の心理, 福村出版

岩井勇児 1999, 保育科・幼児教育科学生による授業評価－無記名・記名、自己評定・他者評定、成績等からの検討－. 名古屋柳城短期大学研究紀要 20, 71-89.

田中幸代 1998, 大学教員に求められる教育力向上のために－教育心理学が検討できる問題の展望－. 教育心理学研究 46, 473-483.

— 資料 —

調査EVT9812RA

「教育心理学」の授業について皆さんの意見をお聞きして、授業の改善の資料としたいと思います。成績に関係ありませんから、Ⅰ～Ⅳの順番に、ありのまま、思ったとおり答えてください。当てはまると思う数字を○で囲んでください。

Ⅰ はじめに次の項目に答えてください。

(1)あなたの入試はどれですか。

1. 一般入試 2. 推薦入試

(2)本学への志望はどうでしたか。

1. 第一志望 2. 第二志望 3. 第三志望以下

(3)本学志望の理由をひとつ選んでください。

1. ぜひ幼稚園・保育所の先生になりたい。  
 1. 幼稚園・保育所の先生、一般企業のどちらでも就職できればよい。  
 3. 一般の企業に就職したい。  
 4. その他 ( )

(4)今日の時点で、就職・進路は決まっていますか。

- A 決まっている  
 1. 公立の幼稚園・保育園に決まっている。  
 2. 私立の幼稚園・保育園に決まっている。  
 3. 一般の企業に決まっている。  
 4. 進学が決まっている  
 5. その他 ( )  
 B 決まっていない。  
 6. 幼稚園・保育園に就職したい。  
 7. 一般の企業に就職したい。  
 8. その他 ( )

(5)本学で学んだことに満足していますか。

5. かなり満足している。 4. まあまあ満足している。  
 3. どちらともいえない。  
 2. なんとなく不満足である。 1. かなり不満足である。

Ⅲ 受講者としての反省があれば、自由に書いてください。

Ⅱ 下に授業に関連した記述(先生のこと、学生のこと)があります。この授業を受講して、これらのことをどう思いましたか。左側にわたしの回答を、右側には、クラスの多くの人たちの回答を予想して、数値で答えてください。

- |  |   |
|--|---|
| わたしは<br>5 そう思う<br>4 どちらかと言えばそう思う<br>3 どちらともいえない<br>2 あまりそう思わない<br>1 そうは思わない<br>↓ | クラスの多くの人たちは<br>5 そう思うだろう<br>4 どちらかと言えばそう思うだろう<br>3 どちらともいえないだろう<br>2 あまりそう思わないだろう<br>1 そう思わないだろう<br>↓ |
|--|---|

	1. 授業内容には興味がある。	
	2. 話し言葉は聞き易い。	
	3. 授業は意欲的である。	
	4. 説明はわかりやすい。	
	5. 私語に厳しい。	
	6. 板書はわかりやすい。	
	7. テキストはわかりやすい。	
	8. 授業の開始時間は守る。	
	9. 欠席・遅刻に厳しい。	
	10. 授業の進み方は適切である。	
	11. 実践的で役立つ内容である。	
	12. 今までと違った考え方に気づいた。	
	13. 自分を見直す機会となった。	
	14. 全体として満足である。	
	15. 教育心理学に関心があった。	
	16. 説明はよく聞いていた。	
	17. 私語をしなかった。	
	18. 居眠りしないようにした。	
	19. テキストの授業範囲外も読んでみた。	
	20. 板書はノートに写した。	
	21. 先生が話すこともノートにとった。	
	22. 遅刻しなかった。	
	23. 黙読のときテキストをまじめに読んだ	
	24. 全体として、理解しやすい授業だった	
	25. 予習・復習するように努力した。	

Ⅳ 授業の感想・要望があれば、自由に書いてください。